

平成24年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号 | 27

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体の上で、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。</p> <p>(1) 生徒の興味関心を喚起して確かな力を身に付けさせる教育の推進 (2) 生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進 (3) 生徒一人一人が帰属意識をもち生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進</p>	
2 評価する領域・分野	◇工業	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>《保護者・生徒アンケート結果より》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「外部講師の講演や様々な体験活動など授業以外の学習の機会が多い」については、保護者の90%、生徒の82%があてはまるという評価をしているが、自分が外部イベントに参加している生徒と、そうでない生徒によっても捉え方に違いがあるように思われる。 ・「資格取得を奨励し、補習などによる積極的な援助」については、保護者の93%、生徒の90%が高い評価をしており、資格試験に対する日常の指導が理解されていると思われるが、生徒の8%がわからないと回答していることを考え、生徒が取得したい資格と科が補習を実施している取得させたい資格に一部違いがあるのではないかとと思われる。 ・「安全教育」については、保護者の92%、生徒の95%が高い評価をしており、生徒は実習前の整列時や実習中の、教職員の日頃の安全教育指導に対して理解していると思われる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇教科指導をとおして職業観・勤労観を育成し、心豊かな人間性とたくましく生きる力を育てる。</p> <p>◇大垣市や地元の企業・教育機関との連携により、地域産業のニーズに応じた実践力と協調性のある人材を育成する。</p> <p>◇出前授業やものづくり体験企画等の開催を通して、生徒のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、地域や小中学校の児童生徒・保護者へ工業教育をPRする。</p> <p>◇授業を通して安全教育を推進し、事故災害の未然防止を図る。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>・工業部 → 学科主任会（課題研究、資格試験、産振設備備品出前授業、テクノ・コラボレーションの各担当） 工業庶務（渉外・会計・広報・大垣市との連携、技術・アイデアコンテストの各担当）</p>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 地域と連携した活動の推進</p> <p>① テクノ・コラボレーション ② 大工Day ③ 出前授業 ④ 大垣市との連携 ⑤ 地域イベントへの参加</p> <p>(2) 教育機関と連携した活動の推進</p>	(1) 各行事に参加した生徒の反応と感想 各行事で実施したアンケートの評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>・今年度の課題研究テーマまたは部活動テーマとして、大垣特別支援学校の先生方と協同して、障がい者用教材の作成を行い12月19日に寄贈した。</p> <p>・7月28・29日に「大工Day」と銘打って、大垣市内3ヶ所の商業施設で、各学科および理科部の参加によりブースを設けて、作品の展示やものづくりなど来場者に体験してもらえる活動を行った。</p>	<p>① 他人を思いやれる心を育成し、「人にやさしいものづくり」を考える力を深化させることができたか。</p> <p>② 生徒が外部の人と対応することにより、実践的なコミュニケーション能力が身に付いたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・西濃地区の小中学校の授業の一環として、本校の教員や生徒が講師となって授業を行う「出前授業」について、小学校4校・中学校8校・特別支援学校1校から申込みがあり、各校と調整を取って実施した。 ・西濃地区を中心とした自治体や各種団体の依頼により、地域で実施される地域おこしのまつりやイベントなどに、本校の部活動の成果の発表やものづくり体験コーナーなどを設置し、地域の人達と交流した。 	<p>③ 小・中学生に対して工業高校への興味・関心を喚起し、本校の広報の一助とすることができたか。</p> <p>④ 生徒が外部の人と対応することにより、実践的なコミュニケーション能力が身についたか。</p>	<p>A B ③ D</p> <p>A ④ C D</p>
<p>11 成果 ・ 課題</p>	<p>○地域の住民や小中学生・保護者に工業教育並びに大垣工業高校のものづくりが浸透し、身近に感じてもらえるようになった。</p> <p>▲活動の多様化に伴い、職員・生徒の負担が大きくなっている。また、生徒の学習や資格取得・課外活動などに対して取り組む姿勢に大きな差が見られ、学校全体の活動として取り組みきれなかった。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A ① C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての生徒に対して実践的な力をつけさせる方策を充実させていくとともに、意欲的な生徒に対してはさらに高度な能力を身につけられるような取り組みをはかっていく。 ・地域や企業・他の教育機関との連携をさらに充実させ、より多くの人たちに工業教育への理解を深めてもらうとともに、本校がものづくり人材育成の場として地域に理解され、積極的な後援を得られるようにする中で、ものづくりに強い興味・関心をもつ優秀な人材が集まるような方策を図っていく。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成25年1月31日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会などで頑張ってきた生徒は、どのように考えてどのようにしてきたのかを後輩にしっかりと伝えて欲しい。 ・高齢化の時代であり、65歳以上が3人に1人となる。やさしい社会でソフト・ハードの要求されることとなる。高齢者や障がい者への対応が必要である。 ・コミュニケーション能力など、企業の生の声を聞くと分かることがあるので、そのような機会を有効にしておもらえると良い。
--